

# いしづち

愛媛労災病院広報紙第11巻第3号

（通巻第65号）

2013年7月5日発行

発行人：院長代理 宮内文久

理念：当院は働く人々のために、そして地域の人々のために信頼される医療を目指します

- 基本方針
1. インフォームドコンセントの実践
  2. 安全かつ良質な医療の提供
  3. 勤労者医療の推進



---

放射線科の役割 ..... 2

新人ドクター紹介 ..... 4

腹部超音波検査 ..... 3

5月12日は看護の日 ..... 4

北5-ド・ブルー ..... 3

---



## 放射線科の役割

放射線科部長 篠原 秀一

病院には色々な診療科があります。大体の科は名前を聞けばどんなことをやっているのかなんとなく想像できると思いますし、その想像に大きなズレはないと思います。その中で放射線科というのは一体どのようなことを行う所なのか中々想像しにくいと思います。日本医学放射線学会のホームページには以下のように記載されております。

放射線科は単純X線写真から最先端画像までの画像診断と画像誘導下で行う局所治療(インターベンショナルラジオロジー: IVR)、および放射線を使った侵襲性の少ないがん治療を行う診療科です。画像を扱う画像診断部門と放射線治療部門とから構成されます。

1895年にドイツのヴュルツブルク大学のW.C.レントゲン博士がX線を発見し、それ以後、いろいろな放射線が発見されました。数年後にはこれらの放射線を利用して診断や治療を行えるように発展、その後100年以上を経過し現在の様々な診断、治療法につながってきています。放射線科という名前はこの原点の放射線を利用する科ということで名前がつけられています。細かいところでは各病院によってその仕事内容については異なると思われませんが、放射線科の仕事は大きく分けると画像診断と放射線治療の2つに分けられます。今回はこのそれぞれの部門について説明していきます。

### 画像診断

医師が病気の治療を行うにあたって、診断をしっかりしないことにはどのような治療を行えばいいか判断できません。診断方法はいろいろありますが、その中でも重要な役割を担うのが画像診断です。単純X線写真から超音波検査、CT、MRI、核医学検査、当院にはありませんが、最新のものではPET-CTなど様々な方法があります。放射線科はそれぞれの画像を読影して、必要であれば検査の追加を提案したりしながら、病気の診断を行います。皆さんの主治医がこれら画像検査の説明を行う時、通常は放射線科医がこれらの読影を行って作成した報告書を読み、解釈した上で行っています。裏方の一人として、皆さんの治療に関わっています。

この中でも現在、基本となるものがCT、MRIです。CTはX線を利用した撮影方法で、体の断面像を撮影することができます。機械の性能の向上で撮影時間は短くなり、画質は良くなり、診断能も上がって来ています。X線を利用するため、被ばくの問題が生じますが現在、最も有用で比較的簡便な撮影方法です。もう一方、MRIですがこちらはラジオ波という電磁波を使いますのでいわゆる被ばくはありません。全体が大きな磁石になっており、内部はやや狭く、ごく一部の患者さんは撮影できない人もいますが脳や脊椎、骨盤腔などの部位ではCT以上に精密な画像を撮影することができ、診断能は向上します。これらの画像を駆使して日々の診療に役立てて行っています。

### 放射線治療

やはり基本はがん治療となります。現代医学では、がん治療として「がんの3大療法」が行われています。がんの3大療法とは、手術、抗がん剤治療、放射線治療です。これらを単独、あるいは組み合わせて治療を行っていきます。近年、患者さんのQOL(クオリティ・オブ・ライフ)向上のため、低侵襲の治療法にシフトしていく流れにあり、比較的侵襲な放射線治療の比率が高くなってきています。抗がん剤と組み合わせた放射線化学療法では手術に匹敵する成績を収める分野もあります。これによって切って治す治療から切らないで治す治療へ選択肢も増えてきました。手術後の放射線治療を行うことで、再発の頻度を低下させるがんの種類があることも分かっており、これによって手術の範囲を縮小、患者さんの負担を軽減させることができます。また、がんが進行すると転移などを起こし、痛みや出血などでQOLが低下します。こういった時にも放射線治療が非常に有効な場合があります。放射線治療医は治療の計画を行い、大きな合併症を起こさずに最大限の治療効果を得るためにがん患者の治療を行っております。

このようにあまり表には出てきませんが、放射線科というのは画像診断、放射線治療によって現在の医療を担っている所です。今後も機械の進歩等で重要性が増してくると思います。





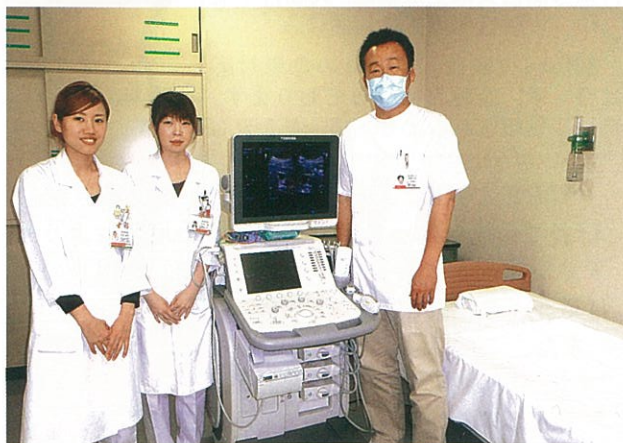
## 腹部超音波検査

### 中央検査部

中央検査部が腹部超音波検査を放射線科医師より引き継ぎ、2年8カ月が経過しました。現在3名の臨床検査技師が検査に携わっています。今回は腹部超音波検査について簡単にご説明します。

超音波とは、人の耳には聞こえないほどの高い音のことです。超音波検査は、プローブから超音波を出し、体から跳ね返ってきた反射波を取りこんで画像として映し出すことで、臓器や血管をリアルタイムに観察することが出来ます。検査にあたっては、痛みもほとんどなく、被曝の心配もありません。

腹部超音波検査では、主に肝臓、胆のう、膵臓、



脾臓、腎臓などを観察します。それぞれの臓器の大きさや、腫瘍・結石などがいないか、状態や形態を観察することができます。

写真は胆石の症例を示したものです。

左上が肝臓、その下に見える帯状に白く囲まれ、楕円形に黒く写っている部分が胆のうです。黒い部分の右のほうに円形に光るように白く写っているのが胆石です。白い円形の部分から右下に黒く尾を引くようになっていっているのは陰影(アコースティックシャドウ)といって、超音波で結石を写し出した時の特徴です。胆のうでつくられた消化液を十二指腸へ出すための管(胆管)が胆のうの左下からつながっていますが、この胆管を結石がふさいだり、胆管の中に結石が入っていったりすると激痛を伴います。

今後も各種学会・講習会等へ積極的に参加し、スタッフ一同技術・知識の向上に努めてまいります。

## 北5-ド・ブルー

「絶対にあきらめない」を合言葉に、司令塔である佐藤循環器内科部長を筆頭に、燻し銀の見上部長、不整脈の貴公子大宮医師、若手のホープ石口医師の4名の医師と微笑みの天使(看護師)28名が、心温まる医療・看護を提供するべく日夜頑張っています。主に、心臓カテーテル検査や経皮的冠動脈形成術、ペースメーカー植込み術、不整脈や心不全の治療を行っており、狭心症治療に関しては愛媛県内4位の治療成績を誇っています。

今、日本は世界に例のない高齢化社会に突入しています。北5病棟もご多分に漏れず、入院患者さんの平均年齢が70歳を超える高齢者病棟となっています。慣れない入院生活をおくり、身体に複数のME機器(心電図モニター、輸液ポンプ、シリンジポンプなど)を装着した患者の安全を守るべく、入院生活に潜む「転倒のリスク」に気を配っています。毎朝、ベッドのストッパーの確認やキャスターの向きの点検を実施し、ベッド周囲の環境を整える安全ラウンドから

一日の仕事がスタートします。ハイリスク患者には、ウォーキングカンファレンスを実施しベッドサイドでの情報共有および対策の検討を行い、安全な療養環境の提供にスタッフ全員で取り組んでいます。

もし、胸痛、動悸を感じたら、循環器内科に相談してください。私達スタッフが、より高いQOLを求めながら、医療、看護の提供を行っていきます。





## 新人ドクター紹介

篠原 秀一: 放射線科部長

経験年数: 18年

専門分野: 画像診断一般、放射線治療

外来診療日又は主な業務: 読影業務全般

画像診断及び放射線治療を通して、新居浜地域の医療に貢献して行きたいと思っております



山岡 理恵: 小児科副部長

経験年数: 9年

専門分野: 小児科一般、腎臓、感染

外来診療日又は主な業務: 月・火・水・木曜日午前中、金曜日午前中乳児健診・予防接種

お子様の体調や気になっている事など、お気軽にご相談ください。少しでもお役に立てればと思います。



池田 宜孝: 外科部長

経験年数: 17年

専門分野: 心臓血管外科

外来診療日又は主な業務: 月・火・金曜日午前中

大血管・大動脈瘤の病気を主に診療しています。早めの受診が肝心ですので、遠慮なく外来に来てください。



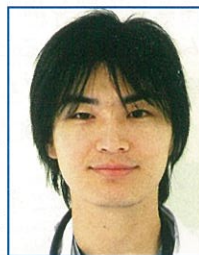
石口 博智: 循環器内科医師

経験年数: 2年

専門分野: 循環器内科一般

外来診療日又は主な業務: 火曜日午前中、火曜日午後予約再診のみ

初診は火曜日、時間外の急患対応は月、木、金曜日に行っております。皆様に信頼されるよう、精一杯がんばります。



大宮 俊秀: 循環器内科副部長

経験年数: 9年

専門分野: 循環器内科一般、不整脈

外来診療日又は主な業務: 月・木曜日午前中、木曜日午後予約再診のみ

動悸、息切れ、胸部不快感などお困りの症状がありましたら、一度ご相談ください。



当院では4月にこの5人の先生が加わり、医師33名で診療を行っております。この増員により外来診療体制が一層充実しましたので、お困りの際は是非、ご相談ください。

また、この5人の先生については、5月発行の「地域医療連携ニュース(第2号)」でも紹介しております。当院ホームページ「広報誌」に掲載しておりますので、どうぞご覧ください。(庶務係)

## 5月12日は看護の日 - ふれあい看護週間行事

「看護の日」は、国民に人に対する世話や看護についての理解を深めてもらうことを目的に制定され、今年で23回目になります。今年のメインテーマは「看護の心をみんなの心に」で、5/12~5/18の看護週間に全国で様々なイベントが開催されました。当院では5/10~5/24までポスターを展示して当院での看護活動を皆様知って頂いたほか、5/15はロビーで看護、介護、栄養、リハビリ、薬剤などの相談イベントを開催し、同時に病棟では応募のあった一般市民の方に看護体験をして頂きました。いずれも好評で多くの市民の方に興味を持って参加して頂けたと思っています。

また、今年は愛媛労災のマスコットキャラクターの「AIRO(愛労)」ちゃんもお披露目しました。AIROちゃんは病気の方が飾ると起き上がりが早くなるという媛だるまをモチーフにデザイン考え、これからは一緒に

病院の活動に参加していく予定です。AIROちゃんに負けないよう、私たちも地域に役立つ病院を目指して、地域の方々に理解してもらえるような活動を継続していくとともに、「命を守る」という仕事に責任と誇りを持って取り組んでいきたいと思っております。



! 広報紙編集メンバー 委員長: 稲見精神科部長 委員: 木戸副院長、医局長(都志見外科部長)、看護副部長、師長1名、師長補佐1名(北6土肥)、小野薬剤師、小川作業療法士、正岡診療放射線技師、伊藤臨床検査技師、鈴木管理栄養士、総務課長、庶務係長、世一庶務係員、地域医療連携室員 !